



播州電装株式会社

代表取締役社長 **米田 昭彦** 氏

建設機械やオートバイ等に搭載されている  
電子機器に電気や信号を送る  
ワイヤーハーネス（組み電線）の製造で  
業界屈指の実績を誇る！

PROFILE

- 1985 播州電装株式会社 入社
- 1996~ PT.BANSHU ELECTRIC INDONESIA 社長
- 2001~ 播州電装株式会社 代表取締役社長
- 2004~ PT.BANSHU PLASTIC INDONESIA President Comisaris
- 2006~ PT.BANSHU PLASTIC RUBBER President Comisaris
- 2005~ PT.BANSHU PLASTIC METAL President Comisaris
- 2008~ PT.KINENTA INDONESIA President Comisaris
- 2011~ PT.PERSADA PUPUK INDONESIA President Comisaris
- 2019 Elcon Banshu Wiring System Pvt.Ltd. (インド)設立
- 2009~ 財団法人 兵庫県立大学科学技術後援財団 理事
- 公益社団法人 明石納税協会 理事



本社外観

—「ひょうごオンリーワン企業」に認定された感想をお聞かせください

「ひょうごオンリーワン企業」に認定していただいたことは、大変に名誉なことと考えています。弊社の製品は一般的ではなく、他企業が造られる製品の中に装着されるため表面に出ないものですから、そこにスポットを当てただけだことに感謝しています。今回認定されたことは、きっと、お客様にも喜んでいただけるでしょうし、従業員も、日ごろの活動が評価されたことを、素直に嬉しく感じられると思います。

—御社の代表的な事業を教えてください

弊社は、1965年に設立された建設機械用電装品「ワイヤーハーネス」の製造・輸入・販売を行っている会社です。ワイヤーハーネスは、電源供給や信号通信に用いられる複数の電線を束にして集合部品としたもので、自動車やバイク、建設機械などの車内配線をはじめ、電気配線を必要とするさまざまな機械装置で用いられています。人間の血や神経のような働きをします。電線の塊の様な製品ですが、これが無いと巨大な機器も動かすことができない重要な役割を果たすものです。

弊社は、こうしたワイヤーハーネス製造の業界で、高いシェアを誇るメーカーとして、求めるお客様に、高品質で高付加価値なワイヤーハーネスを低価格、短納期にお届けしています。特に、例えばオーストラリアや中近東の鉱山で24時間稼働している巨大なダンプトラックや巨大な油圧ショベルなどの電装品としても採用されています。このように、国内だけではなく、世界の土木建築現場、鉱山

など過酷な環境においても耐えうる製品として高い信頼をいただいています。

現在、加古川本社・明石工場の2拠点の他、海外現地法人としてインドネシアにPT.Banshu Electric Indonesia(ワイヤーハーネス製造)、PT.Banshu Plastic Indonesia(プラスチック部品設計製造)、PT.Banshu Rubber Indonesia(ラバー部品製造)、PT.Banshu Metal Indonesia(メタル部品製造)という4つの子会社があります。インドネシアの工場で生産しているオートバイ用ワイヤーハーネスは、同国で販売されるオートバイの約40%、また、その他車体に使用するプラスチックやラバー製品などにも弊社の部品が多数採用されています。

—御社ならではの取り組みを教えてください

弊社では、お客様の多様な要求にスピーディーに応えられるように、多様な生産ライン、海外生産拠点の拡大を進め、常に品質向上、技術向上、コスト低減活動に取り組んでいます。インドネシア工場と日本の本社工場で、IT技術を駆使してリアルタイムでの情報の一元化とオープン化、見える化を実現し、はるかインドネシアの生産される製品1つ1つの生産状況や生産ログが全て記録されトレーサビリティが保証され、重要工程においては映像ログも記録され、いつでも日本で確認できます。また、人材の相互交流を活発に行っています。まさにボーダレスで、人種、文化、言語、距離を意識することなくグローバル化を図っています。また、関連部品の内製化も進め、技術の蓄積と垂直統合のビジネスモデルを推進し競争力を強化しています。



PT.Banshu Electric Indonesia



本社 事務所

最近では、グローバルマーケットの拡大と共に、インドネシア工場の拡大、設備の新規増設を意欲的に進めています。その一方で、弊社で働く全ての社員の働く環境を快適にし、福利厚生も益々充実させることにも注力しています。

—具体的に、どのような取り組みをされているのでしょうか？

弊社では、仕事に着手する際には、お客様に「何が 필요한のか」を探ることから始めます。会社を興した半世紀前からバイクや自動車のワイヤーハーネスの製造を手掛けてきましたが、その中身は、時代ごとに大きく違っています。そうした時代にマッチしたワイヤーハーネスを作り出し、さらに「いつ必要なのか」「どれだけ必要なのか」など、そうした姿勢で、常にお客様のニーズ・シーズに当ててきました。弊社がお客様から信頼をいただいているのは、品質は当然ですが、このように時代に応じた、さまざまなご希望に対応できる企画力、営業力、製造力を備えているからだと自負しています。大小ロット・多品種・短納期などなど、いろいろなご要望が出てきたとしても、あえて難題にチャレンジしてきたからこそ、お客様に納得いただけているのだと思います。



インドネシア製 オートバイ①

一企業の方針として掲げているものはなんですか？

企業理念として「顧客中心」、「品質中心」、「挑戦成長」の3つを掲げています。

顧客中心として『私たちは、常に顧客中心で考え行動し、顧客の喜びが自らの喜びとする。』

品質中心として『私たちは、品質中心の考えに立ち、常に一番の品質で安全な製品・サービスをお届けする。』

挑戦成長として『私たちは、常に新しいことに挑戦し、学習し、その結果、人間として成長し、尊敬されることを喜びとする。』を掲げています。

また、ミッションとして、『播州電装は、グループ全社社員と共に成長し、協働し顧客に安全で高品質である、革新的な製品・サービスをお届けする事を使命とする。』ということ、社員全員が共通認識としています。

一今後、御社が計画している展開や目標はありますか？

より高品質でコストダウンした製品を生みだし、弊社グループ企業内で更なる技術的リーダーシップをとるために「テクニカルセンター」を設置する予定です。また、現在インドネシアの工場はトータル約6千人以上の従業員が働いていますが、IT武装で更なる製造品質の強化を図ります。その他、インドのニューデリー近郊に現地法人を設立しました。そして計画では、今年から来年にかけてインドに工場を建設します。グローバル化を進めることで、播州電装グループ全体の価値を高めたいと考えています。そのためにも、親会社である弊社が、積極的にリーダーシップをとっていかねばいけないと決意を新たにしています。



インドネシア製 オートバイ②

一最後に、これからオンリーワンを目指す企業に何かメッセージがあれば

今回、「ひょうごオンリーワン企業」に認定いただきましたが、そのために何かしてきたわけではありません。日ごろから『会社は社会の公器である』と考え、誠実に企業活動をしてきた結果、このように評価されたのだと思います。

企業を支えているのは人ですから、人間が何のために生きているのかを考え、人格を高めるためにも「播州電装で働けて良かった」と従業員が思えるような会社を目指すことが社格を高め、自然に外部の人がそれを認めてくれば、きっとオンリーワンの企業になれるはずです。

TECHNOLOGY

巨大な車でも正確に制御する電源供給や信号通信を担う「ワイヤーハーネス」の独自技術を誇る

ワイヤーハーネス



ワイヤーハーネス



車やバイクなどの電源供給や信号通信に用いられている複数の電線の束に端子やコネクタなどを加えた集合部品「ワイヤーハーネス」。バイクや自動車などの高性能かつ多機能な機械装置の内部に車内配線として多数張り巡らされていて各種の制御を担っています。このワイヤーハーネスは、人に言い換えるなら神経や血管に相当する非常に重要な部品です。弊社は、そのワイヤーハーネスの専門会社です。

弊社では、的確にお客様のニーズ・シーズを捉え、品質はもちろん、大小ロット・多品種・短納期といったような、さまざまなご要望にこたえることができる企画力、営業力、製造力を備えています。

特に、受注から資材調達、生産管理、製造、検査、配送、システム開発及び付帯業務の活動まではもちろん、電子電機部品の輸出入、ワイヤーハーネス及び関連する部品の設計開発、全て自社で完結させられる技術力と生産能力が自慢です。

開発に至った経緯

1965年、弊社の歴史は明石市で自動車電装品修理、販売を開始したことに始まります。その後、大手企業が手掛ける建設機械用電装品を担当するようになり、ワイヤーハーネスに出会いました。そして、重機やバイクにとってワイヤーハーネスが非常に重要な部品であることを知り、68年から建設機械用・産業機械用電装品として、その制作を開始しました。それから40年余りにわたり、独自の技術を磨き上げ、自社で設計から制作できる体制を整えたことで、日本でも希少な少量多品種のワイヤーハーネスの受注が可能な企業となり、国内で高いシェアを占めています。

今後の展開

現在、インドネシアに工場がありますが、新たにインドにも工場を建設しています。インドは世界有数のIT技術を有する国ですし、人口も10億人を超えるなど、技術力もあり、さらに、これからの成長が期待できる国ですから、今後の様々な成果を期待して、新たに進出を決めました。



PT.Banshu Electric Indonesia

## インドネシア工場との情報一元化とオープン化を実現

弊社では、地理的に距離がある本社工場とインドネシア工場で情報の一元化を実現しています。人種、文化、言語、距離を意識することなく、ボーダレスでグローバル化を推進しています。また、関連部品の内製化も進めることで、技術の蓄積と垂直統合のビジネスモデルを推進し競争力を強化しています。



日本とインドネシアとのテレビ会議

## 沿革

1965年2月	明石市大久保町にて播州電装として自動電装品修理、販売を開始	2000年7月	弊社インドネシア現地法人、ISO-9002認証取得
1966年8月	(株)神戸製鋼、川崎重工(株)の建設機械用電装品を製造開始	2001年3月	川崎重工株式会社精機事業部 取引開始
1967年7月	新社屋を移転完成、法人組織となり、播州電装株式会社を設立。同時に製造部門とサービス部門の2部門となる。建設機械用・産業機械用電装品とワイヤーハーネス製作を開始	6月	日本輸送機株式会社 取引開始
1969年3月	三菱電機株式会社向け産機関連電装品製造開始	12月	(株)日立建機ティエラ 取引開始
1970年2月	事業拡大のため、工場増築	2002年11月	インドネシア共和国にプラスチック射出成型会社 PT.BANSHU PLASTIC INDONESIA 設立
1974年6月	ワイヤーハーネス専門工場増築(本社西3階建)。並びに電装品、制御盤関係設備増強	2003年2月	物流センターを兵庫県明石市松陰字木戸ノ上269-11に建設
1976年1月	国道2号線側に電装品ショールーム開設並びにサービス部門移設、修理、サービス工場新設	3月	日立建機株式会社 取引開始
1983年2月	油谷重工株式会社広島製作所(現コベルコ建機株式会社)へパワーショベル用電装品供給開始	7月	インドネシア共和国に薄板プレスパーツ製造会社 PT.BANSHU METAL INDONESIA 設立
1986年8月	バス並びに小型船舶用暖房機サービス特約を三国工業(株)と契約 県下バス会社並びに交通局とメンテナンス並びに部品供給契約サービス開始	8月	日本本社にインターネットサーバーを設置し、データベースの一元化を実現。インドネシア工場との間をインターネットEDIで生産計画情報、手配残管理、出荷情報を、リアルタイム処理を実現
1987年12月	三木S8ワイヤーハーネス製造工場開設	11月	弊社インドネシア現地法人、ISO-9001認証取得。インターネットによるEDIシステムを稼働させ、インドネシア現地法人と、日本本社とのデータを、一元管理を実現
1989年6月	本社工場生産設備増強並びに自動機導入のため、工場新築(本社東3階建)	2004年8月	日本本社 増築工事完了。日本本社の新社屋完成
1992年3月	極東開発向けワイヤーハーネス製造開始	11月	TCM株式会社 取引開始
7月	株式会社小松製作所 取引開始	12月	インドネシア共和国にゴム成型会社 PT.BANSHU RUBBER INDONESIA 設立
10月	神部造機株式会社 取引開始	2005年7月	インドネシア共和国・西ジャワ州・フルワカルタ市に第4工場完成
1993年10月	小松フォークリフト神戸工場 取引開始	2006年2月	PT.BANSHU ELECTRIC INDONESIA 本社建屋改装完了
1995年1月	サービス部門、明石市魚住町金ヶ崎704-1へ移転	2007年7月	インドネシア共和国・西ジャワ州・フルワカルタ市にPT. BANSHU ELECTRIC INDONESIA 第5製造工場(7,000平米)完成
1996年9月	インドネシア現地法人 PT.BANSHU ELECTRIC INDONESIA 設立	12月	加古川市平岡町西谷25-1に播州電装日本本社工場竣工
12月	PT.BANSHU ELECTRIC INDONESIA 商業生産開始	2008年9月	資本金を500万円に増資
1998年1月	二輪車用ワイヤーハーネス販売会社 PT.DHARMA BANSHU INDONESIA 設立	11月	つくば支店開設
10月	東海理化販売株式会社 取引開始	2009年4月	インドネシア工場とのリアルタイム・オンライン・システム稼働
1999年8月	酒井重工株式会社 取引開始	2019年12月	「ひょうごオンリーワン企業」に選出される
11月	南検査棟 完成		
12月	インドネシア現地法人本社移動に伴い、第2工場を新設		

## 会社概要

所在地	〒675-0102 加古川市平岡町西谷25-1	従業員数	215名	各種ワイヤーハーネス製造、インストメントパネル製造、ワイヤーハーネス輸入販売、電装部品輸出入
電話	079-456-0010	資本金	5千万円	
FAX	079-456-0020	設立	1968年7月1日(創業1965年)	
URL	https://www.banshu.com/	代表取締役社長	米田 昭彦	

## 事業概要